夕刊
磐城新聞
七月七日發行

定價 一ヶ月金五拾錢（郵稅共金六拾五錢）
廣告料 普通欄五號十二字詰一行金六拾錢 特別欄金九拾錢（場所指定一行一回增）
編輯印刷兼發行人 福島縣石城郡平町十六番地 柏木哲
發行所 磐城新聞合資會社
電信略（タイライワキ） 平局私書函第十二號 電話五六四番
〔日曜祭日翌日休刊〕
東京振替一〇八・五五六五番

天氣豫報（小名濱測候所觀測）
今晩も明日も南の風晴驟雨模樣

京都
磐中會に就て
青木淳

上

七月に入つてから、めつきり暑くなつて、六大都市の中一番熱いといふ都が、毎年の事乍ら身にしみる。でも夕方から四條通りに出てみると、祇園囃の鉦の音がゆるく流れて十七日の祇園祭が今からまたれる。

磐城中學を卒業したものが京都に相當在住してゐるので前から磐中會の結成があるのであるが、僕が萬年幹事といふ譯で僕が中心になつて開かないと誰も開かうとしない。それで磐中會には僕が一人責任があるやうに思へて仕方ない。過日磐中の修學旅行團が、京都に二晩滞在といふので、京都の同窓生に謄寫版にすつて通知をしたのであつたが果して三條の伏見屋に、磐中生の旅行團を訪問してくれた人が、幾くらあつたかを疑はずにはゐられない。當時私は京都市會議員の選擧に、吾同志のものを應援してゐた關係上、二晩續けて、旅宿を訪問する事が出來ず大變申譯ないと考へたのであつたが、磐中卒業の根本源藏先生にお目にかかれた事は大變なつかしくうれしくもあつた。磐中の修學旅行團が京都を發たれてから、間もなく加茂川に面した、魚清といふ料亭で磐中會を開く通知を出して歡いたのであつたが、折角返信の葉書を添へて送つても、返事の全くよこさぬ人もあり、折角の磐中會であるのに、僅かな理由（私からみて）で出席しない人の多いのは私に衷心から遺憾に堪へぬ次第です。もつと磐中のものは、仲よく少しづゝ己の我といふものを、取り合つて約二百里も故郷が離れて來てゐる同郷のものが睦み合つてもよいではないかと考へざるを得ない。それで魚清（先年平から野崎喜八郎君が來たとき開いたところ）の磐中會は、出席者が少いのと前にも書いた通り、私が選擧に關係してゐるので、恁ういふ會合もどうかと考へたので流會にしてしまつたのでした

それで、私が何といふ事なしに、幹事等といはれてゐる關係上、入數は問題なしに磐中會を開かなければならぬと考へ七月三日土曜日に開會しようと、各方面に更に通知を出した處、私以外に六人の出席者が出來たのであつた。ここで書かなければならぬ事は、この磐中同窓會に一番熱心に應援し、且つ盡してくれてゐるのは、第一回卒業の鈴木正武氏であり、私への手紙なり電話ある度、磐中會を開けといふ事をいはれる

松葉杖
小林猛夫

默々を　こらへたが
諦めて
淚をためて

松葉杖
門前まで出てきた、おばさんも
杖で行く子も、さみしそう

後からきた子は
先へ行く
振りかへつて見て
驅けて行く

學校の前の、ぬかるみは
僕が背おつて上げよう

先生、先生
とりまいて
みんな元氣で
遊んでる

あの子が落ちたロクボクは
まだ朝露でぬれてゐる

呈堀切前代議士
珠雲　小野務平

滿腹經綸天下知
怪君失墜淚空垂
由來小敵不容蔑
好待重來卷土時

磐城歌壇
新妻久滿夫選

『酒の歌』（4）　國玉　喜一郎

○木傳ひて啼くは何鳥名も知らに聞けば愛しき醉ひの心地に
○盃は二つ三つこそめでたけれ數重なればかなしみの來る
○泣上戸泣かして見むと盃を兩手にもたす友の面憎し
○傷心を手を打ちうたは唄へども此の哀しみの詮方ぞなき
○圓き瞳の醉はゞ美しからましとひた强ひに酒をすゝめけるかな
○その女醉ひていきまく姿よし髮打ち亂しなくはなはよし

小野　前紙に依る。

7月8日

△平清盛高野山金堂の落慶供養に血曼茶羅を奉納す（久安六）△法然上人の言行錄『和語燈錄』成る（元享元）△江戸幕府に外國奉行を置く（安政五）△ロツクフエラー生る（一、八三九）

新刊紹介

△法律新聞七月三日號（一部稅共拾錢五厘、東京市日本橋區本町四丁目五ノ

讀者、記者、廣告
―新聞斷片―
高村生

（上）

讀者とは何か？

この問ひに答へて、アメリカの或る雜誌編輯者は曰ふ

『化け物である！』

讀者は果して化け者であるかどうかは別として、此の種の解答としては仲々言ひ得て妙であると思ふ

それとは元より同日に論じられないし、その物質にさう似てゐるまいが、日本の文壇でもさき頃來『讀者論』がそこ此處でたゝかはされてゐる

が、新聞の讀者論といふのは未だ聞かない

無論、都市の大新聞になると自ら一貫した特色なり風格なりを有つてゐて、各々その好むところの層に據つて支持購讀されるであるのが、地方にあつては容易にさう云ふ事が期待され難いのである

萬一新聞を批判するやうな讀者があつたにしても、それは極めて少數の人々である許りか他はその地方より發行さるゝ一二の新聞で可もなく不可もなく滿足若しくは我慢してゐるのが普く今日のところ、地方新聞の『讀者』の正体であらうと思ふ

しかし、若しもかゝる現狀に足れりとし、又は姑息的態度を意識しつゝ敢てそれを犯してゐる新聞社ありとすれば、それはたゞに讀者を偽瞞する事に止まらず新聞自体の生活を自ら惡德に墮し、醜怪、低劣、無性格に甘んずるものであると知らなければならない。

講談
妖刀流轉（えうとうるてん）
(133)
邑井貞吉演
佐々木今朝吉畫

斷腸の悲み（一）

ち『私も思はぬ禍ひにて、一時は惡人の爲め、危く操を破られようとした故、舌を嚙切り死なうと迄必死の覺悟を極めたところ、不思議な事で助かつたも、全く亡き夫が草葉の蔭から、お護り下されたに違ひない、お互にこの上とも用心を重ね、少しも早く夫の仇を討たねばなりませぬ、必弱くては叶ひませぬぞ』

と、女乍らも健氣なおちか、頻りに新七を勵ましたが、新七は言葉もなく、差うつ向いて思案にくれる。その中におこよがキャッといつて飛び上り、外の者も色を變へたのは地響するような雷の音、戸障子へ感じてビリ〳〵震へた、これは遠からぬ處へ落雷したものと思はれます。

幼いお梅はワツと泣き出す始末、然しいゝ鹽梅にそれからは段々雷の音も遠くなり、雨も小降になつたかと思ふと何時の間にやらカラリと晴れて天氣になつた今までの大雨大雷は忘れた樣。

女中が閉め切つた窓の戸障子をあけ放すと、雨に濡れた山々の樹々が生々として居ります、大太郎は窓の所へ走り寄り、

大『お母樣〳〵、お梅もおこよも爺やも來て御覧、おれあれあんなに』

と指さすから一同が彼方を見ると山の端から、中空へかけて美しい虹が出た。

梅『マア綺麗々々』

と手を叩いて喜ぶ、遣兒は誠に無邪氣なもの。おこよも怖い雷鳴がおさまつたので、青かつた顏の色も癒り、漸う元氣が出たらしい。

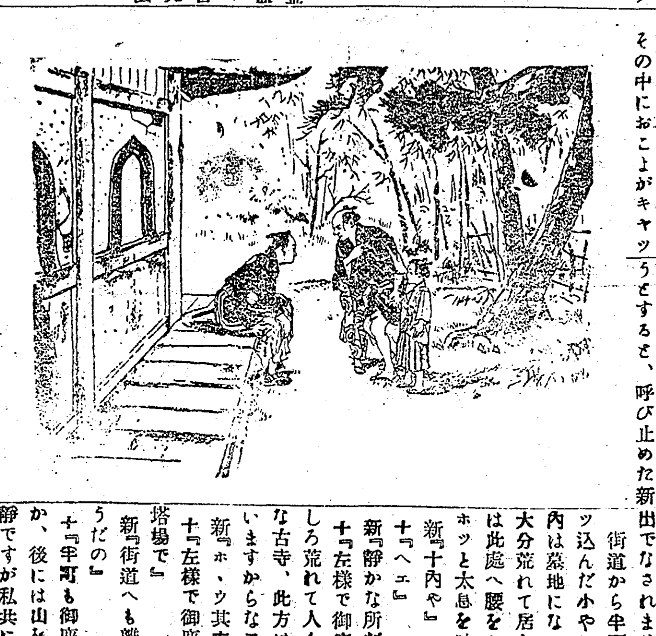
十内は身拵へを致し、

十『サア坊樣も孃樣もお家にばかり居らしてはお毒で御座ります、モウお天氣になりましたから、爺やがお供をして、何處ぞ其の邊を少し歩いて參りませう』

大『アゝそうかい、嬉しいな嬉しいなサアお梅おいで』

十内は小供を連れて出ようとすると、呼び止めた新七が、

新『十内や、氣の毒ながら拙者もその邊まで、同道し



十『へエ、よろしう御座いますとも、若旦那樣もお氣晴らしにブラ〳〵お散歩なされませ、サアお手を取りませう』

十内に手を取られ、新七も立ち上つて宿の戸外へ出た。

おちかは疲れたと見へて横になつて居りますから、十内は新七の手を引き、大太郎にお梅を連れ、追分の宿をブラブラと棒鼻の邊りまで參りましたが、

新『十内や』

十『へイ何で御座います』

新『少し休息をしたいのう』

十『左樣で御座りますか、オゝ、幸ひあれに小さなお寺が御座います、あのお堂の椽へ參りまして、腰をかけると致しませう、こうお出でなされませ』

街道から半町あまり、引ツ込んだ小やかな古寺、境内は墓地になつて、本堂も大分荒れて居ります、新七は此處へ腰をかけて思はずホッと太息を吐いたが

新『十内や』

十『へエ』

新『靜かな所だのう』

十『左樣で御座います、何しろ荒れて人も居ないような古寺、此方は墓場で御座いますからなア』

新『ホゝウ其方が墓所か』

十『左樣で御座います、亂塔場で』

新『街道へも離れて居るようだの』

十『半町も御座いましようか、後には山を背負ひ、閑靜ですが私共には淋し過ぎていやで御座いますな』

と話してゐる、こゝに又一場の悲劇が起るお話……

平市紺屋町一一
上原家政婦會
會主產婆 上原通子 電話二二番
產婆看護婦資格有者ニシテ最モ熟練ナル者ヲ一般家政婦トシテ派出致シマス

福島縣平市揺槌小路壹番地
土地建物 電話金融 種狸分讓
乾產業合資會社
平 電五五五番

產科 婦人科 外科 藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 内木宗八
藥劑師 大岩俊雄
入院隨意 病室完備
平市新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します。
福好工業合資會社
代表者 强口唯七郎
自動車部
電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します。

互融會事業近況
事業報告昭和十二年五月中
融通口數 一五口
融通金額 三、八六六、四〇
滿期拂戻金額 七二口
滿期拂戻金額 三、二四〇、〇〇
概況昭和十二年五月現在
會員數 七、三七九口
會員世帶數 四、八六二戸
積立金額 八四、九六二、一〇
融通金額 二三、二三三、五〇
回收金額 四一、二〇〇、五〇
滿期拂戻口數 一六四口
滿期拂戻金額 七、四二五、〇〇

一、社會公共事業及慈善事業ヘノ奉仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、稅金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日稅立金ノ奬勵
一、小資本金ノ相互融通

太平火災海上保險株式會社平中央代理店
石城中小商工互融會
事務所 福島縣平市揺槌小路一番地 電話五五五番
小名濱方部 小名濱町古湊
湯本方部 湯本町淺町
菊田方部 植田町淺町
相双支部 原町東一番町

外科、内臟外科 エツキス光線科 院長 安齋徹
新設 產婦人科 醫學士 黑澤廣
入院隨意
平市田町
安齋醫院
電話四七五番

鮫川砂利採取及販賣
砂利 砂 玉石
砂利採取場 川部村沼部 山田村法田 植田鮫川橋下
貨物自動車運搬業、有價證券、株式債劵賣買及仲介、商品依托販賣、千代田生命、千代田火災保險代理店
常磐線植田町
植田物產株式會社
取締役 山崎登 電話三一番
各種貨物一般及重量機械類運搬取扱
石城郡錦村中田
植田物產錦出張所
電話（植田）一三五番

カメラ材料
藥品百貨
平電話3番
西村屋藥局

豆炭、コールタール販賣
一、品川豆炭
大袋 五貫匁入 金七十五錢也
小袋 壹貫匁入 金二十錢也
壹袋カラ配達致シマス、ドウゾ御注文下サイ。
一、コールタール一本（十五キロ入）金九十五錢
一本ヨリ配達致シマスカラ是非御試メシ下サイ。
電話三七番
平驛前
ツ 阿部石炭店

耳鼻咽喉科專門
入院隨意 病室完備
平市南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番

眼科一般
眼鏡檢定
重田眼科
平驛前通り元福島貯蓄銀行跡
醫師 重田景治
平市田町一番地

銘木（床ノ間材）天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
万 織田材木商店へ
福島縣平市 電話平四六〇番
營業種目 建築木材一式 銘木・ベニヤ板 秋田產・杉四分板 建具材・便利瓦
一變せる勉强振りを、ぜひ一度お試を乞ふ

廢物（古新聞紙）利用の醵金で 十六ミリ映寫機購入

市内三小學校の二千六百年記念事業

童心皇紀を讃ふ

府平窪の第四校を除く市内三小學校に於ける皇紀二千六百年記念事業に就ては過般來寄々研究考案中であつたが此程の保護者會に於て

今校兒童より一週二枚宛古新聞紙の寄附を受け之を財源として十六ミリ映寫機を購入する事に決定、直に實行の上第一回分として纏つた二十二貫みを長橋町ます屋商店に交渉し普通値だん貫當り二十錢を特に三十錢で買ひ渡し差當り六圓六十錢を得今後引續き同店と特約を結んだ

而して映寫機購入費は大体三百圓の豫算で市内某有志の如きは個人にて全額寄附の意向を洩らした程で前記零碎の醵金によらず即時實行も可能であるが特に全兒童をして記念意識を深からしむる爲敢て此の計劃によるとの事で大体來春早々購入の上、實地撮影したる地方の名勝、舊蹟其他を地理の教材に取り入れて映寫し興趣裡に之を會得せしむる一方、營利映畫に因る弊害を除去せんとするなど、其間生ずる好影響多く非常に有意義な企てとして一般から迎へられてゐる

加茂川の夜風に 磐中學園を語る

―京都で和やかな同窓會―

京都在住者の磐中會は青木淳氏（好間村出身第十二回卒業）の肝煎りで去る三日夜加茂の川風涼しい同市木屋町四條下ル喜久屋に於て開催、舊師の憶ひ出その他學生時代の昔し語りに酒興をつくし十時半閉會したが出席者左の如く次回は來る十一月中旬頃名高い石山寺のあたり瀬多川畔の柳屋で開く筈であると

（出席者）紡績會社重役鈴木正武（第一回小名濱町）大谷大學敎授立花勝法學士（第十一回目）東洋レーヨン附屬病院長矢吹一男博士（第十二回夏井村）正木信功博士（第同錦村）京都商業敎諭作山道男文學士（第三十回双葉郡廣野）京大研究室宇佐神正康文學士（第廿八回双葉郡木戶）青木淳 因に市内宿際小學校長福尾要十一回は微恙、學生側の門傳、馬目は暑中休假の爲欠席したと（明紙一面『京都磐中會に就き』記事參照）

勞働者來れ

平紹介所で登錄

旣報―平職業紹介所では愈々來る十一日から六日間に亘り毎日午前八時から午後四時迄勞働者の登錄を行ふことゝなつたが平窪方面の希望者は區長から願書用紙を貰ひ舊平窪村役場へ申込まれたいと

資格は市内居住の十六才以上六十才迄の男女

同所では『登錄のお知らせ』と題したチラシ數萬枚を配布する、尙從來同所で登錄したものはその數七百名に上つてゐる

收容延八百名

好成績のうちに 九品寺託兒所終る

市内九品寺の農繁託兒所は旣報の如く去月十八日から二十九日迄十二日間に亘つて開設したが一日の扱ひ七十二名、この延人員八百六十四名を收容した旨六日市役所を通じ縣當局に報告した

勿來―植田 電話回線增加

勿來―植田間は回線輻湊緩和のため今般第一回線を增設されることゝなつた

これは仙台遞信局が市外通話の圓滑なる疎通を期するため電話回線の擴張改良計劃を樹立中過般の議會で電話擴張改良五ヶ年計劃の豫算が成立したのでこれにより地方通話疎通の敏速をはかることゝなつたのである、地方では同區間だけである

豐原（樺太）の工事場へ 平紹介所から卅名

―きのふ勇躍出發―

近來頓に各方面からの求人殺到に面喰つてゐる平職業紹介所からきのふ三十名の勞働者が樺太に渡つた

これは樺太豐原市の水道工事に當てるものでその大部分は農閑季を利用しての出稼ぎである

四家所長から『一たん渡つた上は健康に留意して最後迄働くやうに……』との激勵に送られて一隊は勇躍出發した

。。。。川角君合格　市内下平窪工兵一等兵川角德一君は三日仙臺聯隊區司令部で行はれた滿洲國昭和製鋼所職工採用試驗に合格した

高値二百圓

桶賣駒糶終る

川前村桶賣の二歳駒糶賣は四日から三日間に亘つて行はれたが出頭百五十頭でこの取引總價額一萬三千三百五十三圓

（牝）最高二百三十一圓　最低四十六圓

（牡）最高百六十八圓　最低三十圓

この平均値は八十九圓二錢で馬質の向上から昨年より

常磐炭鑛

五種目に優勝

茨城豫選を通過して 陸上選手神宮へ

四年後のオリムピツク大會を目指してゐる常磐炭礦陸上競技倶樂部では旣報の如く四日茨城縣日立製作所會瀨グラウンドで催された關東陸上競技選手權大會茨城豫選に出場したが優勝種目並に記錄左の如く更に來月神宮で擧行される晴の檜舞臺に臨むべく練習を續けてゐる

△千五百米四分三十秒小池敬一（磐炭）△走巾跳六米三六丹野富士夫（磐炭）△走高跳一米七〇花澤保夫（磐炭）△砲丸投一二米五七菅野靜夫（入山）△三段跳一三米六七丹野富士夫（磐炭）

磐女競技 練習開始

磐城高女では學力考査も終つたので七日から縣下大會を目指しての猛練習を開始した指導敎諭左の如し

△陸上競技―蝦名　松浦　△庭球―鈴木光　大內　△籠球―新妻　鈴木正　△排球―永島　穴井

。。。。鐵材泥捕る　内郷村綴坑夫水戶忠良（三三）は市内山田文一方から前後數回に亘つて鐵材を窃取して平署に檢擧された

皮算用時代

最低七十位で當選か

其後の死亡、轉出、失格を控除した 總投票現在數決定す

平市會議員選擧の有權者數は昨年九月十五日現在の五千百二十三名中死亡、轉出、失格者、舊平二百七十一名舊平窪二十一名を差引き現在數は四千八百三十一名と決定したが之を基本とし優劣を込みにして平均得票を概算すると、うち棄權豫想一割を控除して約四千三百五十票に對する五十一候補の一人當り八十五票二三であるが、落選者二十一人の得票五十票平均此の合計千五十票と假定して殘りの三千三百票を定數三十名を以て除すと百十票となり、其の中には前記平均得票より遙かに多く百を突破すること少くも十台より數十台に上るものもある筈で結局最低七十前後どこで當選圈內に入るでは無いかと觀測する向もあるなど愈よ中二日に迫つた各候補の事務所は擧げて捕らぬ狸の皮算用時代を現出して居る

。。。。。種牡牛檢查日割　種牡牛の檢査を左記日割で執行す

二十二日―四倉　草野　高久　小名濱　二十四日―勿來　植田　湯本　平

商業組合認可

平市吳服商、川前木炭商兩組合はかねて縣經由の上商工省に設立認可申請中六日認可指令あつた

平吳服組合は組合員十二名、出資一口につき五十圓、又川前木炭組合は組合員六名、出資一口につき百圓である

外交員に化ける

貴金屬泥鵜川の余罪

王子署に捕はれた貴金屬泥の足どり』を調べてゐる―若松市道匠小路生れ鵜川一郎（三七）は旣報の如く昨年十月二十二日磐城炭礦所長菅原萬治郎氏宅に侵入、金時計、指輪、現金等（價格千五百餘圓）を掻つ拂つた外平署管內で十三件の盜みを働いて高飛びし塗物外交員に化け込んで東京近邊を荒し廻つてゐたが遂に惡運盡きて囚はれの身となつたものであり餘罪も相當ある見込みで目下追究中であると、通知に接した平署ではその手口により目下『縣

。。。。眞田君渡滿　市内古鍛治町眞田朝春君は昨年仙臺四聯隊衛生兵として在隊中今般滿洲派遣軍に編入、歸省中であつたが七日午後一時

。。。。殺人男服罪　田人の殺人男―田人村南大平土工古家小二郎（五〇）は平支部で懲役六年を言渡されたが今七日服罪

。。。。毆り料二十圓　四倉町本町左官職門馬淸松（四四）は去月四日朝士地質貫のことから同町門馬公平を毆り全治十日間の傷を負はせて七日平區から略式罰金二十圓

心の花束を贈る

―床しい乙女の純情―

けふは花祭り―第二小學校ではこの日午前中は花の靈を慰めるの會や小學藝會等を催し午後からは乙女達が市內各病醫院を訪れ成績品や花束を贈つて病氣に呻吟する氣の毒な人々を心から慰めてやつたので皆んな『乙女の純情』に目をしばたゝいてゐたと

兒童の書方で 汚すな一票！

小學校の選肅運動

『當選は童心から……』と兒童を動員して汚すな一票の趣旨宣傳に努めてゐる市內各小學校では今七日書方の入賞界を左の如く決定、これを明八日から三日間市役所或は市內各商店のショーウインドー等に揭げて全有權者に呼びかけることゝなつた

△第一　二年―山田政光　佐川富保　大高剛一　佐藤安郎　三年―坂本政直　柴田章夫　鈴木濱男　園部武久　四年―水野昭之　山崎慶一　五年―坂本剛　早川昭夫　栗田孝一　鳥海司郎　佐川英一　菊地武彥　大和田一郎　六年―鈴木秀直　佐竹五郎　磯山一郎　牧野總一郎　高一―大平泰明　高二―小齋宗司　齋藤修三　高橋滋

△第二　二年―穴井美子　高野光子　三年―石井美子　瓜田けい　宮田幸子　四年―渡邊マサ子　安藤敏子　原貴美　横山ケイ子　五年―黑木雅子　堀井和子　鈴木知惠子　六年―中野靜子　渡邊巍子　鈴木靜　高一―大岩チヨ子　小川トヨ子　丹野アイ　高二―影山里子　關內敏子　阿部英子

△第三　二年―鈴木圭子　菅野亮　會田正一　岩村妙子　三年―鈴木光子　佐藤定夫　吉田綾子　岡井辰三　四年―矢代琴子　田口光男　西野晃　鈴木千代子　五年―荒木顯子　福本貫雄　根本和子　井上通　六年―鯨岡美喜　鈴木健三　布施敏子　藤岡規悅

△第四　二年―加澤嘉孝　佐藤キクヨ　三年―松崎和子　齋藤昭　四年―松崎昌矩　鈴木昭二　五年―坂本イチ子　六年―高萩勝　石井杉子　高一―髙田公正　高二―小野富子

人殺しの毒草

山遊び御用心の事

江名町上神白宇大澤農加藤一與二女あさ（六）ちやんは五日夕六時半頃同町沼澤地內で毒ウツギを食べ猛烈な中毒を起して間もなく死んでしまつた、附近の子供にも目下中毒を起してゐるものもある模樣なので平署で取調中

八日（小名濱測候所發表）
滿潮　前二、五〇　後五、四〇
干潮　前一〇、三五　後一〇、二五

投檜

投書歡迎

。。。。。觀光協會の必要。。。。。

◇『明朗市政』は五十一名ものうちから選ばれる新議員によつて築き上げられんだから、早くもこの新市會に對していろ〳〵の注文があらうが私は新興都市なるが故に從來も頻りに叫ばれてゐた觀光協會の結成を要望する

◇弗々書入れ時に入つた四倉や新ハイキングコースを設定した大野村などでは最近相前後して結成したやうだ、いろ〳〵の準備もあつたんだらうが四倉などてはなせ、もつと早くつくつて『四倉の濱は招くよ』の宣傳に乘り出さなかつたのかと私は寧ろ遺憾に思つてゐる

◇見渡す處平市内には惜しいかなこれと云つて觀光地帶と云ふものもないやうだが――花の松ケ岡や、昨年邊りから傳統を誇る仙台市のそれよりも賑かなあの『七夕祭り』なども協會の手によつてドシ〳〵宣傳に努めたならば新興平市の存在も一層認められると云ふもの、敢へて一言を提す次第である（愛市居士）

。。。。。看板を書き直せ。。。。。

早いもので市制施行より一と月を送つてしまつた。目下市議戰に忙殺されてる故だらうが名ばかりの市―平である。殊に其の感を深くさせるのは各商店の看板だ『平市』と改められた看板はホンの數へる程も無いの勿論、各商店では之を氣にして居ないのではない筈だ看板屋の諸君よ！軒並に一字づゝ直して行けばいゝのだ、一字十錢位でやつて見る氣はないかネ（愛市生）

諸判定應需　東京市本郷區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠館

新七月八日　木曜　丙申　赤口　除　奎宿　舊六月一日

▲一白　平調なる氣運なれど無理すれば不利に陷る▲二黑　輕忽の振舞をなして思はぬ驚きに會すべし▲三碧　努すれば努する丈の功を呈する活躍有望日▲四綠　身心落付かず氣移りを生じ失策を招くべし▲五黃　成否は天に任せ義の爲めには大に奮鬪せよ▲六白　約定事の定め迷惑起り後日の辛勞を見る日▲七赤　運氣すこぶる不良にして既得の財をも失ふべし▲八白　願意ならねども憤慨せざる可らざる事起る▲九紫　雄圖大に成れども人に利をすくはるゝ事あり

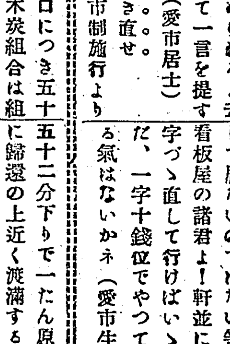
廣告

酒とマツイ
おでんの繁ちやん
平市田町花ノ里　電話三三番

レストラン　サロン
食事　喫茶　酒場を兼ねた
平田町　電三五二

肺病ロクマク
其徴候としては原因なくして肩がこるとか胸が痛むとか、寢汗が出るとか、輕くて繼續する『セキ』をするとか、顔色が段々蒼白くなるとか、体重が月々著しく減ずるとか、朝より午後になると輕度の熱が數日以上續く場合
感冒又ハ流行性感冒の後久しく疲勞不快の感覺を脱せざる場合には『ゼヒ』一二週間位服用して下さい、必ず御滿足を得る事と信じます、今迄に全快せられし御方は數多く御座います。
此藥は他の藥店にありません。
價一週間…三圓　二週間…五圓五十錢
ハイロクノール代理店　常磐線植田町　安田屋藥局　電話番一〇三

壯年、老年の方　飲酒家、肥滿體の方
血壓をお測り下さい
當店では皆樣のために標準血壓計を設備致し御自由に御使用願ふやうに致しました
血壓降下藥として又それの放任に依つて起る中風動脈硬化、腦溢血、神經衰弱等の最も恐る可き老衰病の豫防並に治療劑として
プロナウン
の効果、當店の信用と懸の確固たる自信のもとにお勸め申上ることの出來る製劑
定價　¥1.50　¥3.00　¥5.00　¥10.00
福島縣平市田町　阿部藥舖


メガネは正確にして廉價
最新式各國製レンズ
眼鏡
豐富に取揃へて御座います
（亂視用眼鏡即時調製）
根本時計店
平市二丁目　電話六〇七

小料理の味も美味（うまい）ぞ
仲田町
一度來て見よ―
主婦（おかみ）　翠月